

'sorry?' とか 'I beg your pardon?' よりも 'yer wha?' がよい。礼を言うときに 'thank you' の代わりに 'ta' と言うのはイングランド南部やウェイルズでよく耳にするが、これもリヴァプールでも使われる。

つなぎの言葉として文頭、文中、文尾を問わず頻出する（標準英語の 'you know' に相当する）間投詞として 'like' というのがある。ただし、これも必ずしもリヴァプール方言に限った用法ではない。夏目漱石の『坊っちゃん』の英訳版（アラン・ターナー訳）では、語尾の「ぞなもし」をこの 'like' で表現していた。

ギリシア・ローマ神話と現代 (2) 新惑星エリスの名前の由来

経営学部
山田 晶子

惑星の名前には、ギリシア・ローマ神話から取られたものがある。今年の9月13日に、国際天文学連合 (IAU) が命名した新惑星「2003UB313」の名前「エリス」もそうである。エリスが惑星に昇格したために、以前は惑星であったがエリスよりも小型のために矮惑星に降格された冥王星「プルートー」の名前もギリシア・ローマ神話に由来がある。また、火星「マース」、水星「マーキュリー」、木星「ジュピター」、金星「ヴィーナス」、土星「サターン」の名前も、全てギリシア・ローマ神話から来ている。この他、太陽や月、様々な星の名前もギリシア・ローマ神話から取られているが、今回は、新惑星「エリス」の名前の由来とそれに関わる話を書こうと思う。

「エリス」は女神の名前である。しかし「女神」

という神々しい言葉から受ける印象に反して、「エリス」は不吉な名前なのである。女神には美や優しさや勇気や愛という心地よい響きと関係する神々だけではなくて、復讐や不和等の怖い性質を備えた神々が含まれているのである。そしてエリスという女神は「不和」を司る女神なのである。「エリス」はギリシア名で、ラテン名はディスコルディア (Discordia) であり、英語 "discord" (「不和」「仲たがひ」の意味) の源になった語である。エリスは、ギリシア・ローマ神話の中では目だっていない女神であると考えられるが、あの有名なトロイ戦争を引き起こした陰の張本人であることを考えれば、表立って目立っていなくても重要な存在なのだと分かる。

では、トロイ戦争はいかにして勃発したのだろうか。19世紀に、ドイツ人シュリーマンがトロイの遺跡を発見して以来、ギリシア人ホメロス作の『イーリアス』と『オデュッセイア』に登場しているトロイという国は、実在していた国であることが分かっている、現在の小アジア (トルコ) に位置していたと思われる。トロイの国には美貌で有名な王子パリスがいた。彼の兄がヘクターであった。

さて、不和の女神エリスは、ジュピター (ギリシア名ゼウス) の愛人テティスとペレウスの結婚式に招待されなかったことに腹を立てていた。招待されなかったのは彼女が「不和」をもたらす女神であったからやむを得なかったと言えよう。しかし、エリスは何となく自分の不名誉の仕返しをしたいと思っていて、オリンポスで結婚式が盛大に行われていた際に、黄金のりんごを投げ込んだ。そのりんごには「一番美しい者がこれを手に入れることができる」と書かれていた。これを見て、ジュピターの正妻であるジュノーと女神ヴィーナス、そして女神アテナ (ミネルヴァ) の三人が、自分こそが一番美しいからりんごを手に入れる、と全世界で最高の美女の称号を得ようとして立候補した。三人のうちで誰が一番美しいかを審判する役割を当てられたのが、トロイの国のパリス王子であった。三人の女神は、パリスに、もし自分

を一番美しいと判定してくれたら御礼にこういう褒美を上げようと交渉をした。これが有名な「パリスの審判」である。さて、あなたは誰が最高の美女神に選ばれたと思うであろうか。ヴィーナスは、もし自分を選んでくれたら「世界一美しい(人間の)女性」を上げると言い、ジューノーは「世界を統治する権利」を上げると言い、アテナは「あらゆる戦争での勝利」を上げると言った。あなたが男性であったならば、どの褒美を選ぶであろうか。美貌の王子パリスは、ヴィーナスを一番美しい女神に選んだ。ゆえに今日までヴィーナスは「愛と美の女神」としての名声を保っているのである。そしてパリスは世界で一番の美女を手に入れるはずであった。

さて、当時世界で一番美しいと言われていた女性はトロイのヘレン(ヘレナ或いはヘレネとも呼ばれる)であった。ヘレンは、白鳥に変身したジュピターが美女レダに産ませた女性であった。だから半分は神の血を引いていると言える。彼女は、ギリシアの王アガメムノンの弟であるメネラオス王の妻であった。しかしパリスは強引に人妻ヘレンを奪ってトロイへ連れてきてしまったのである。数年前に、映画『トロイ』が作製されて日本でも上映され、好評を博した。あの映画ではアキレス(「アキレス腱」という言葉の元になったギリシアの英雄)が主人公であったが、ヘレンとパリスの恋愛もかなり詳しく描かれていたので、興味がある人は『トロイ』をビデオテープで観てほしい。映画の中では、ヘレンはかなり年上の夫メネラオスと政略結婚させられたのであり、夫を愛してはいなかったことになっている。それゆえに美貌の王子パリスにはたちまち心を奪われてしまったのである。

だが、ギリシアの王メネラオスは、自分の妻を奪われて黙っているわけにはいかなかったし、彼の兄のアガメムノンもかねてからトロイを征服したいと思っていたので、弟の妻ヘレンをトロイの王子に奪われたことを、トロイに戦争を仕掛けるための絶好の口実にした。彼は、当時の都市国家をまとめギリシア全軍を組織して、表向きはヘレ

ン奪回のためにトロイへ遠征に出かけたのである。トロイは堅固な要塞に囲まれ、陥落させるのは容易ではなかった。しかしギリシアの知将として有名であったオデュッセウス(都市国家イタカの王)が、かの有名な「トロイの木馬」を思いついて作戦を立て、遂にトロイを陥落させたのであった。このトロイ遠征の一連の話と、オデュッセウスが故郷のギリシアの自分の国イタカへ帰郷するまでの一連の物語がホメロス作の『オデュッセイア』(ラテン名から来た英語では『ユリシーズ』と言う)である。

上述したように、不和の女神エリスのせいでトロイ戦争は始まったのであった。そして、今回新惑星になぜ「エリス」と名前がつけられたのかと言えば、旧惑星「プルートー」を矮惑星に降格させてエリスを新惑星に昇格することに反対した科学者たちがいて、学者の間で論争があったためと考えられる。新惑星は科学者間に不和を生じさせたので、その結果「エリス」と命名されたのであると思われる。

コラム

韓国雑学：ことばと文化の散策

ふるさと あせい
古里 亜星

【一】ノドンとテポドン

質問 「北朝鮮のミサイル。ノドンとかテポドンとかドン・ドンが付くのはなぜ？ ノドン、テポドンって名前、なにか意味があんの？」

解答 1 まず「ノドン」。1993年に発射された1段式ミサイル。私をはじめ、韓国人の多くも誤解していたようだが、実はこの名は朝鮮労働党の「労働：ノドン、노동」に由来する名ではなかった。ノドンとは、同ミサイル実験施設のある地名「蘆洞：ノドン、노동」から取って、アメリカを